薔薇(s'est levé)
ピアノ組曲「六花」より

Kouhei　IHARA

Rose

s'est levé

Op.24

Notation（奏法に関して）

・終始絶え間なく続く１６分音符の連続は無限に広がる薔薇の離弁花を表す。
・ペダリンングは敢えて書かなかった。しかしほとんど踏まない（クープランの墓のプレリュードを弾くサンソン・フランソワのような）のではなく、むしろたくさんペダルを踏んでも良いので豊かな響きを作曲者は望む。
・作曲者は演奏者に薔薇には一体何色の薔薇があるのかを調べることを望む。赤、ピンク、白、黄色、紫、そして青い薔薇も存在する。抽象的な意味合いで黒い薔薇もある。
どの部分も色聴と音視によって様々な色調とニュアンスを持った薔薇が表現されているので、そのような演奏を心掛けて欲しい。

楽曲解説

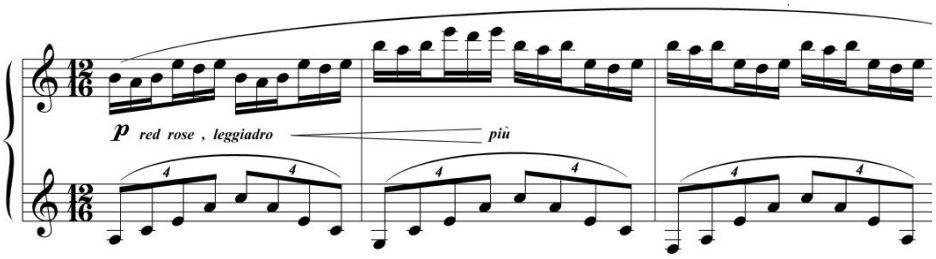
この曲には２つの意味合いがある。１つ目は私の作曲の師である富山優子氏の作曲レッスンでの課題でラヴェルの「クープランの墓」風の曲を書けという課題があったため。もう１つはほかの「六花」の曲同様に花＝女性を表すという組曲「六花」としての意味である。

「ボレロ」や「亡き王女のためのパヴァーヌ」などで知られる偉大なフランスの作曲家モーリス・ラヴェル（1875-1937）は私の作曲の師匠の師匠の・・・と数えていくと５代前に当たる人物で、遠い師に対する尊敬の念を込めてこの曲は作曲された。それ故この曲は彼の「クープランの墓」のプレリュードに倣って作曲されている。

語法は課題上の制約でラヴェルに倣った部分が多々あるし、またそうでなければ課題の意味がないので、この曲を副題で「ラヴェルの墓」とも題した。

「六花」としての「薔薇」はほかの曲同様に花＝女性を表していて、角南映菜という女性に対する私の印象が音化されている。頭脳明晰で段取りが良く、器用で運動神経に優れ、他人の心理を読むことを得意とし、多方面に有能で、それらに立脚した決断力と行動力と物事の３手４手先を読む推理力を持った彼女はまさしく薔薇のような、それも一輪の薔薇ではなく様々な色彩を持ったたくさんの薔薇が咲いている美しい庭を思わせる女性であった。それゆえ「絶え間なく続く１６分音符の連続は無限に広がる薔薇の離弁花表す。」と書いているが、徹頭徹尾ひたすら続くそれらは彼女の優秀さの顕れである。曲よりもモデルの良さを賞賛したい。

形式に関してはラヴェルに習っている。提示された薔薇の主題は作曲者独自の「ドリアン６スケール」で出来ており、この主題が全体において展開される。この薔薇の主題は「花のカタログ」に出てくる薔薇の主題と全く同じで組曲「ジヴェルニーの庭」でもこの薔薇の主題は登場する。



様々な調性による薔薇の色の指定（***white rose,red rose*** など）は作曲者の論文「色聴と音視による作曲技法」を参照のこと。

ピアノ組曲「六花」より薔薇（ラヴェルの墓）

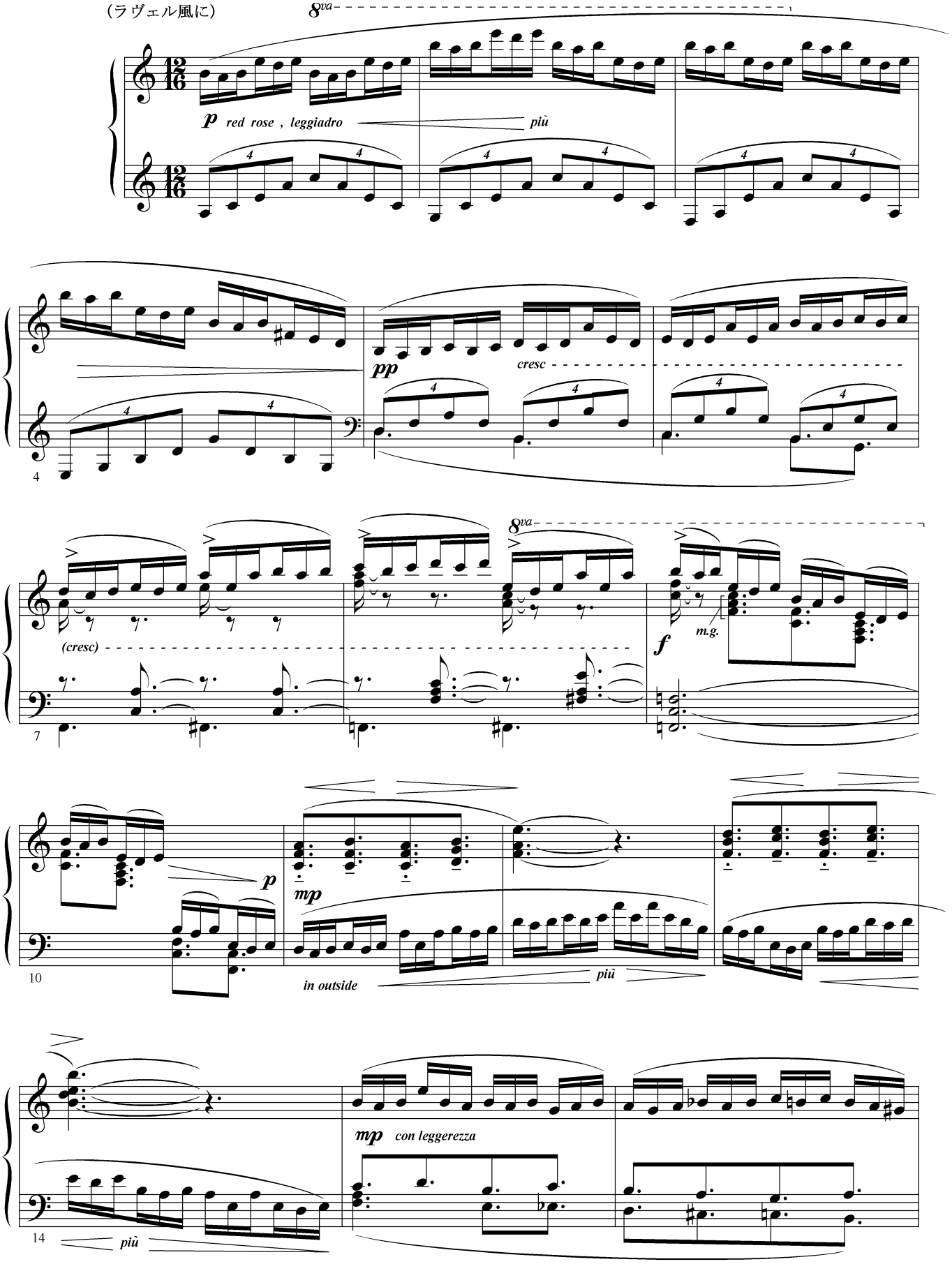
piano suite [six flowers]

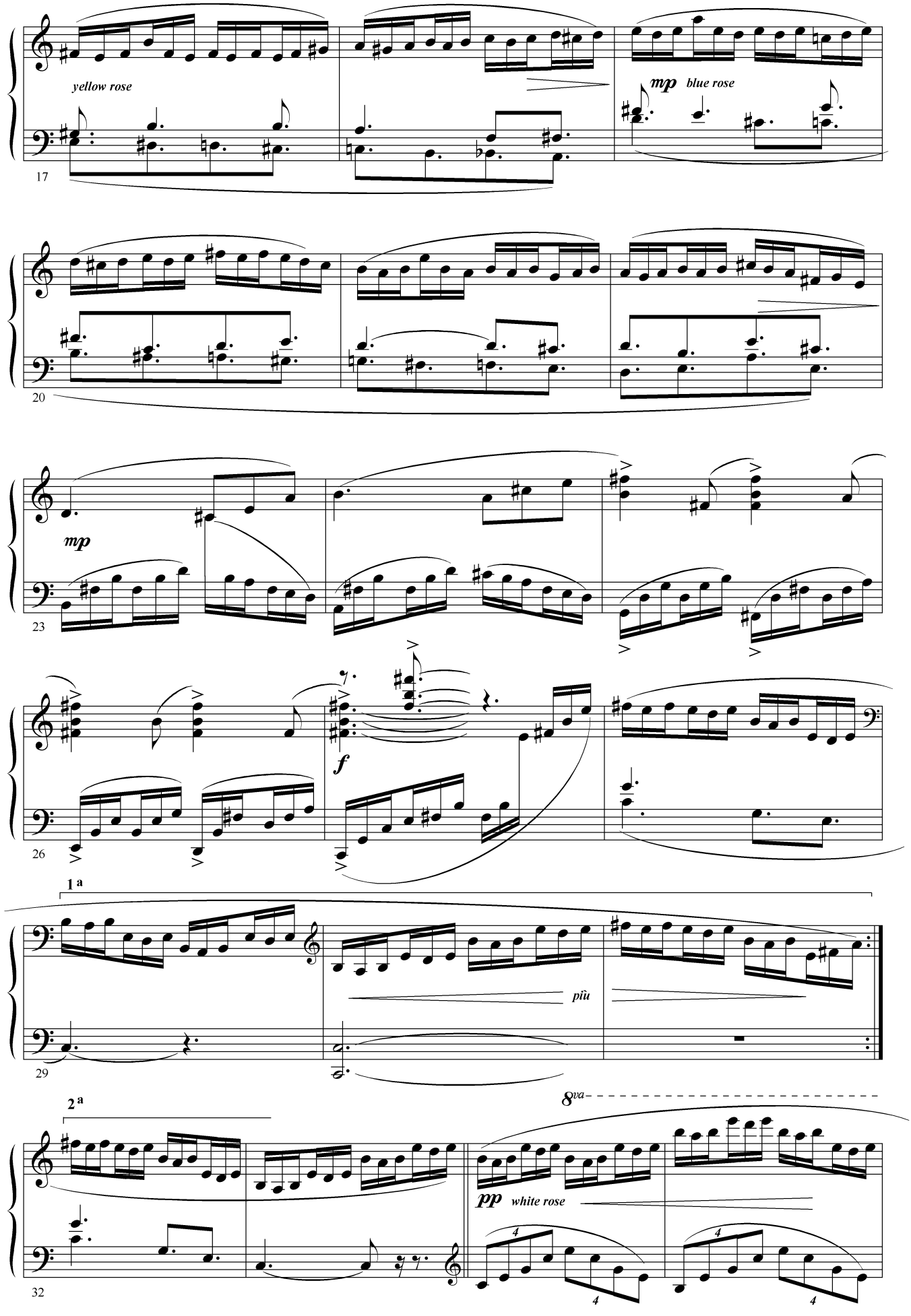
Rose (The grave of Maurice RAVEL)

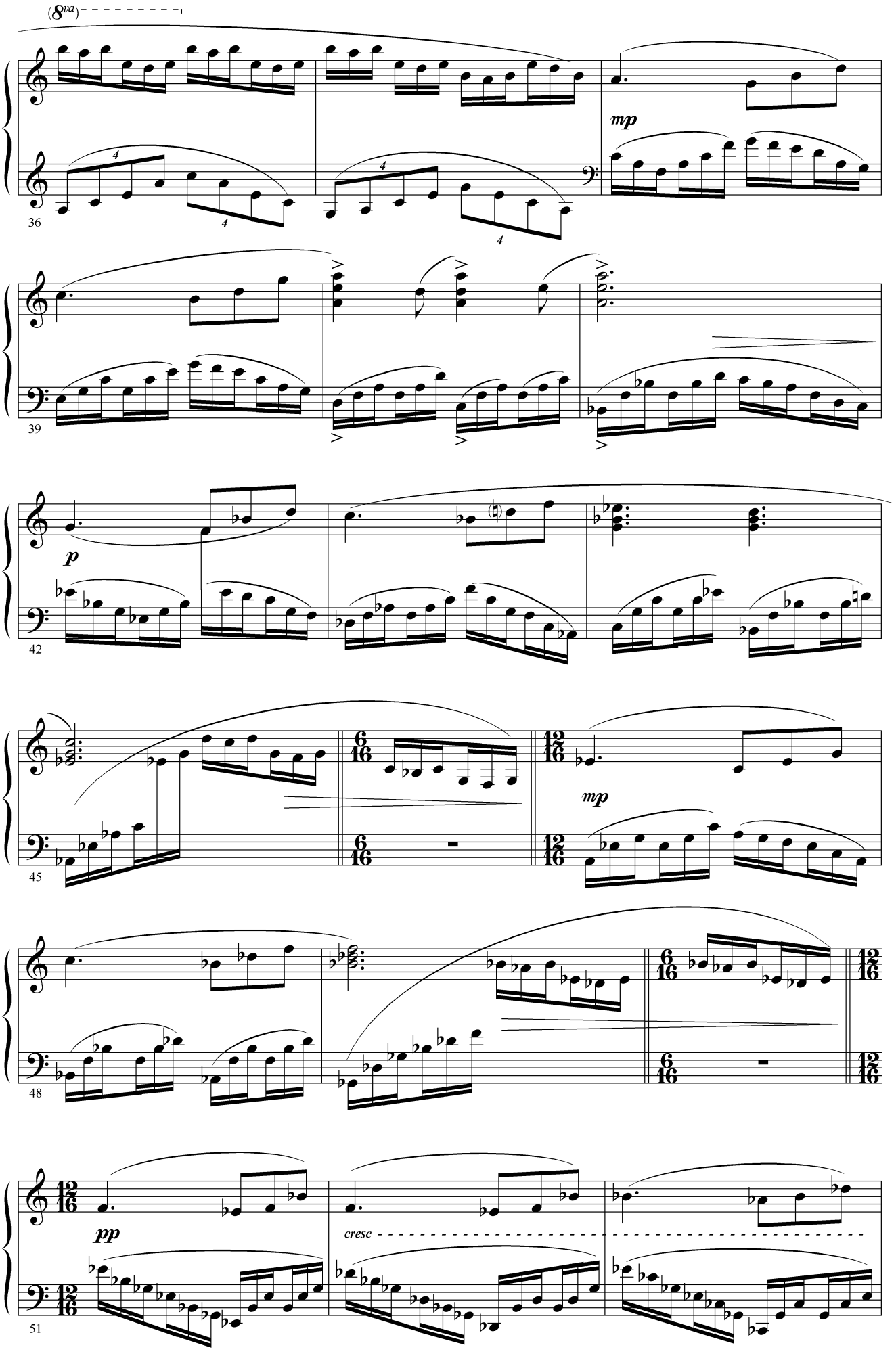
Like a rose of various colors ♪. =160

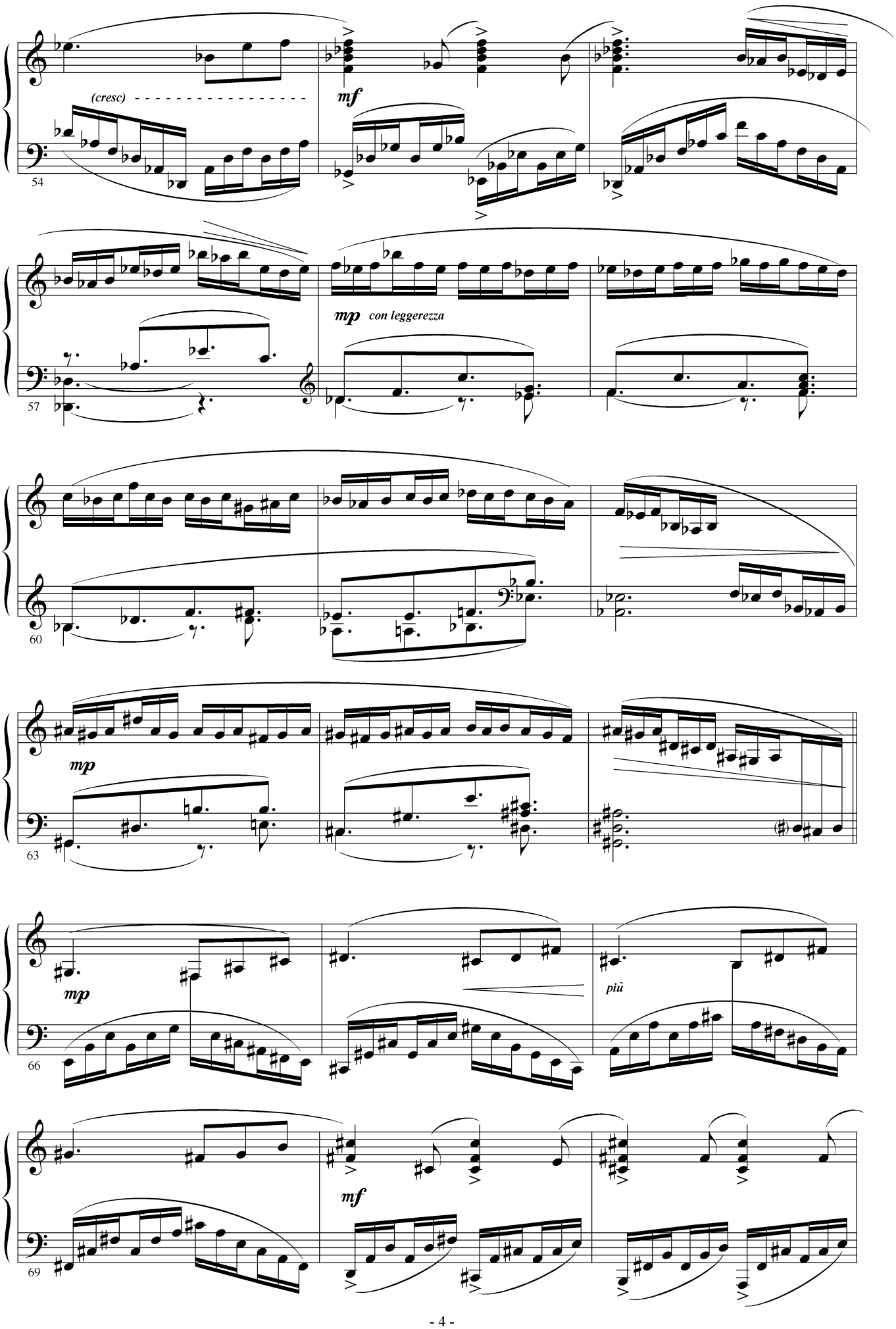
Kouhei IHARA(1978)

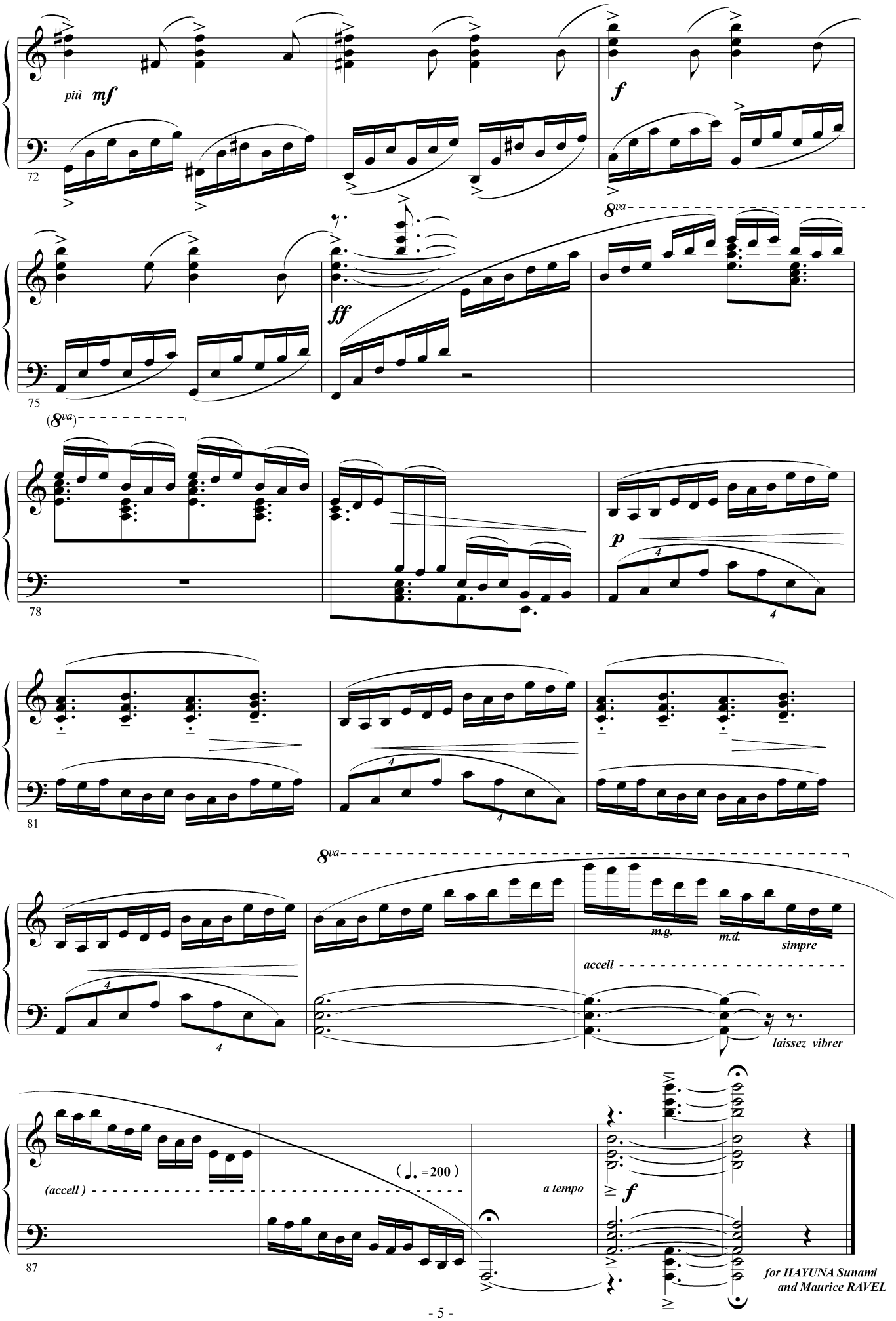
（ラヴェル風に）




yellow rose
mp blue rose
17
20
mp
23
f
26
1 a
più
29
2 a
8va
pp white rose
32


(8va)
mp
36
39
p
42
mp
45
48
pp
cresc
51


(cresc)
mf
54
mp
con leggerezza
57
60
mp
63
mp
più
66
mf
69


72
più mf
f
75
ff
8va
(8va)
78
p
81
8va
m.g.
m.d.
simpre
accell
laissez vibrer
87
(accell)
(♩. =200)
a tempo
f
for HAYUNA Sunami
and Maurice RAVEL

連絡先
E_mail：pierottlunaire@uyuu.sakura.ne.jp
URL：http://uyuu.sakura.ne.jp/